SUMH Newsletter

1 巻頭言；.カンボジアの精神保健と SUMH の活動の現在と未来
・・・・・・・・・・・・・ 青木勉（SUMH 理事長）
2.カンボジア視察報告
・・・・・・・・・・・・・ 青木勉（SUMH 理事長）
3. 2023 年 SUMH カンボジアプロジェクト報告
−コロナ禍を経た SUMH の現地活動の現状−
・・・・・・・・Kruoch VANNAK（SUMH カンボジア代表）
4.カンボジア戦略的精神保健計画 2023−2032 年
・・・・・・・・・・・・・ 青木勉（SUMH 理事長）
編集後記　青木利江子（SUMH 理事）

発行：途上国の精神保健を支えるネットワーク
Supporters for Mental Health；SUMH

＊＊

1.カンボジアの精神保健と SUMH の活動の現在と未来

青木勉（SUMH 理事長）

散歩で出会った鶯

鶯の囀りが春の訪れを告げる今日この頃ですが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

はじめに、このニュースレターが 1 年ぶりの発行になってしまったことを深くお詫び申し上げます。SUMH は、2022 年 9 月からシェムリアップ州病院内にあります精神科リハビリテーションセンターを中心に活動を再開しています。昨年度も JICA 草の根資金を獲得して、カンボジア・シェムリアップ州病院内に公的な地域精神保健センターを設立することを目標に活動をしました。ニュースレター55 号でもお伝えしましたが、今までの当会のカンボジアでの地域精神保健活動で得られた知見から、外来診療、アウトリーチサービス、デイケア活動、医療保健従事者への精神医学教育ならびに家族を含めた地域住民への精神保健の啓蒙が、カンボジアの精神医療の向上に極めて有効であると考えられるためです。毎月理事会を開催し、カンボジア現地代表の Kruoch Vannak 氏にも参加してもらい、公的な地域精神保健センター設立の準備をしました。JICA 草の根資金を獲得し地域精神保健センターを設立するためには、当会がカンボジア政府に認められた国際 NGO であることが前提となります。2019 年にコロナ禍で国際 NPO の認証である、MoU が期限切れとなっていたため、2022 年から Vannak 氏に更新を依頼していました。MoU の更新には、州保健局をはじめ、2 つの省庁、保健省と外務省の認可が必要です。昨年度は保健省の認可は降りたのですが、残念ながら外務省の認可が得られませんでした。その主たる原因としては、SUMH の現地活動が、コロナ禍で地域での訪問活動が中断となり、外来診療を現地化したため活動規模が縮小し、それに伴って現地活動の経済規模も縮小し地域での訪問活動が中断となり、外来診療を現地化したため活動規模が縮小し、それに伴って現地活動の経済規模も縮小したので、カンボジア外務省が予算規模から判断して国際 NPO として認め難いと判断したためと考えられます。そして、JICA 草の根支援の応募も、昨年度は書類不備による資格不十分のため却下されてしまいました。

現在のカンボジアの精神保健の状況を知り今後の当会の活動方針を検討するため、2024 年 3 月 10 日から 3 月 14 日までの 5 日間、SUMH の活動とカンボジアの精神保健を 4 年ぶりに視察してきましたので、別項に概略を記します。今回の視察で強く感じたのは、カンボジアの人々がコロナ禍で様々なストレスを受け、多くの方がこころの健康を害し、精神保健の重要性を認識するようになり、そのケアを求めるようになっていること、しかし現実は、こころのケアは圧倒的に不足しており、支援を

強く求めているのではないかと強く感じました。現地では当会の活動継続、ことに精神科リハビリテーションのカンボジア全土への普及への希望は大変強く、今後どのように活動をしていくべきか、思案しております。

当会の運営状況は、経済的にも大幅な円安も加わり大変厳しいものがあります。カンボジアで心のケアを継続するためには、会員の皆さまのご理解とご支援が必要です。この状況をぜひご理解いただき、どうぞ引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

カンボジア保健省精神保健・薬物依存課

2.カンボジア視察報告

青木勉（SUMH 理事長）

1.はじめに

直前に日程の変更があったため、当初予定していたベトナムではなく、中国の深センを経由して夜にカンボジアの首都プノンペンに入りました。カンボジアは、乾季で気温も摂氏 40 度近い日もあり、私が住む千葉県旭市との気温差は 30 度近くありました。プノンペンは、高層ビルが増え、その間には、以前と同様トタン等で出来た 2 階建の建物がある状況ですが、明らかに高層化が進んでいるように見えました。

2.高齢者のメンタルヘルスケア

プノンペン国際空港で、Van Kamol 氏の出迎えを受けました。Kamol 氏は、2003 年に SUMH が養成した Psycho-Social Practitioner（心理社会専門家）の一人であり、現在カンボジア政府の要職に就いており、SUMH のアドバイザーを務めてくれています。カンボジアも 2050 年には高齢化することが予想され、対策を練る必要があるので、ぜひ SUMH が中心となって、日本での経験と知識を活かしてカンボジアで高齢者のメンタルヘルスケアを行なって欲しいと、昨年秋から SUMH にカンボジアへの訪問を要請していました。結局今回は、政府側との話し合いの機会を持つことはできませんでしたが、我が国の高齢者医療や介護の経験をカンボジアと共有することは、今後の SUMH の課題の１つではないかと思います。

3.デイケアサービスの普及

3 月 11 日朝からカンボジアの精神保健の公的なリーダーである、保健省精神保健・薬物依存課の Chhit Sopahl 先生と話し合いを持ちました。まず初めに、2024 年 2 月に立案された今後 10 年間のカンボジアにおける精神保健計画を伺い、今後の SUMH の活動について期待することをお尋ねしました。先生は、2019 年にお会いした際にも、今後必要となる精神科地域ケアのモデルを、ぜひ SUMH が提示をして、教育と研修を行なって欲しいと要望されていました。今回も SUMH が、公的地域精神保健センターを建設して稼働するプロジェクトに関して、全面的に協力をしてくれることを約束してくださいました。また、技術支援として、SUMH が 2002 年から行なっているシェムリアップ州病院での精神科リハビリテーションセンターのマニュアルを作成し、カンボジア全土へ精神科リハビリテーションを普及させることに貢献してほしいと要望されました。これも今年度以降の当会の課題ではないかと思います。

4.シェムリアップ州病院精神科リハビリテーションセンター

3 月 12 日朝から SUMH のメンタルヘルスリハビリテーションセンターがあるシェムリアップ州病院院長の Pen 先生と話し合いを持ちました。2019 年にお会いした際に、2023 年に JICA が外科、救急を中心とした病棟を建設する予定となっており、その際精神科外来とメンタルヘルスリハビリテーションセンターも新棟の建設を機に移転をして欲しいとお話をされていました。訪問当日の会議で、SUMH のリハビリテーションセンターを移動するのは、2030 年建設予定の新棟に移転する際にお願いをすることを決定したとのことでした。当初予定されていた場所は、窓もなくデイケアの活動が制限されてしまうと現地代表の Vannak 氏が不満を漏らしていたため、当面現在の場所で活動できること

を聞いて、喜んでいました。また、SUMH が以前から計画している公的な地域精神保健センターのプロジェクトについては、完全な協力をしてくださると約束してくださいました。

シェムリアップ州病院に
2023 年日本の協力で建設された救急病棟（側面）

シェムリアップ州病院に
2023 年日本の協力で建設された救急病棟（側面）

シェムリアップ州病院救急病棟玄関前に建てられた
カンボジアと日本の友好の石碑

シェムリアップ州病院長 Dr. Pen（右）、
SUMH カンボジア代表 Vannak さん（左）との協議

5.シェムリアップ州病院精神科部長　Dr. Sovannara
3 月 12 日お忙しい外来中の時間を割いていただき、話し合いを持ちました。公的地域精神保健センターのプロジェクトについては、現在はシェムリアップ州には人口約 120 万人に対して精神科医が3名しかおらず極めて多忙であり協力は困難であるが、来年予定されている退職後は、センター開設に協力をしてセンター長を務めることができると前向きの返事をいただきました。

シェムリアップ州病院精神科外来にて
Sovannara 先生（中央）、Vannak（右）さんと

6.SUMH の運営するシェムリアップ州病院精神科リハビリテーションセンター
この会議の後、SUMH の精神科リハビリテーションセンターで、Vannak 氏、デイケアで助手の Savun さんが運営するデイケアの活動に参加しました。シェムリアップ州病院の外来に隣接した 40m^2 ほどのオープンス

ペースで、診察を終えた患者さんとその家族 20 人前後と一緒に、Vannak 氏が車座担って座り、フリーで質問を受けたり、疾患の心理教育を行っていました。うつ状態で涙ながらにお子さんのことを話す中年の女性や、20 年以上精神科に通院している器質性の精神疾患を患っている 40 代の男性等、多くの参加者が積極的に発言している光景が 1 時間ほど続きました。SUMH が 2003 年からこのデイケアを運営していることを説明されると、多くの参加者は、「おっくんちゅら」と両手を合わせて、お辞儀をしながら口々に謝意を表してくれました。

7.SUMH が精神保健支援し、現地化している 2 つの農村地域の保健区病院

3 月 13 日朝から、シェムリアップのダウンタウンから 50km ほど離れたクララーン保健区病院に行き、Morm Chan Saoun 病院長をはじめ若手の医師 4 名と看護師と話し合いをしました。精神科の外来については、4 名のジェネラリストが交代で月 2 回診察をしている状況であり、重症の患者さんが受診した際には、治療に難渋することがあると話されていました。

午後からは、シェムリアップのダウンタウンから約 60km ほど離れたアンコールチュム保健区病院に行き、Morm Sochan 病院長をはじめ事務長や精神保健の責任者等のスタッフと話し合いをしました。精神科の外来については、保健省の精神科トレーニングを受けたジェネラリスト 1 名が担当しているが治療に難渋する時があるので、今後も SUMH の支援やスーパーバイズをお願いしたいと希望をされました。

クララーン保健区病院の正面入り口

クララーン保健区病院 Morm Chan Saoun 病院長（左から 3 人目）らとの協議

アンコールチュム保健区病院のホスピタルロード

SUMH が開設したアンコールチュム保健区病院の精神科外来が現在も使われている

アンコールチュム保健区病院 Mom Socha 院長
（中央）らとの協議

シェムリアップ州保健局長 Kros Sarath 先生
（中央奥）らとの協議

8.シェムリアップ州保健局

3 月 14 日は、朝からシェムリアップ州保健局長 Kros Sarath 先生、スタッフ 12 名と話し合いました。SUMH が構想する公的地域精神保健センターの設立、ことにデイケアサービスを拡充する案について説明し理解が得られましたが、現地からは精神障害者に加えて新たに薬物依存症患者もデイケアでケアの対象にしてほしいという希望が出されました。このプロジェクトの担当者を州保健局のスタッフから3名指名してくださり、州保健局が SUMH に大きな期待を寄せていることをひしひしと感じました。

シェムリアップ州保健局

3.　2023 年 SUMH カンボジアプロジェクト報告
–コロナ禍を経た SUMH の現地活動の現状–
Kruoch Vannak（SUMH カンボジア代表）
翻訳　青木勉

SUMH をご支援いただいている皆様、会員の皆様、

この度、カンボジア・シェムリアップ病院メンタルヘルスリハビリテーションセンターの年次報告書をお届けすることができ、大変嬉しく感謝申し上げます。皆様の揺るぎないご支援と献身的なご尽力により、私たちは、支援を必要とする人々に包括的なメンタルヘルス・サービスを提供するという重要な活動を継続することができました。

概要　設立以来、メンタルヘルス・リハビリテーション・センターは、シェムリアップ州内外の精神疾患を抱える人々の生活改善に尽力してきました。教育、リハビリテーション、地域社会への働きかけを含む包括的なアプローチを通して、私たちは受益者の複雑なニーズに対応するよう努めてきました。

メンタルヘルス・リハビリテーションにおける活動の重要性

メンタルヘルス・リハビリテーション・センターでは、精神疾患を持つ人々の回復、エンパワーメント、社会的包摂を促進する上で、私たちの多様な活動の重要性を認識しています。各活動はそれぞれ独自の目的を持ち、総合的に受益者の幸福に貢献しています。各活動が不可欠である理由は以下の通りです：

1.　　心理教育：教育は、精神状態を理解し管理するための鍵です。心理教育では、自分の病気、治療の

選択肢、対処法、再発予防法に関する知識を身に付けさせます。情報を提供することで、自己理解を深め、回復の旅に参加できるようにします。

2.　社会的交流：社会的孤立は精神疾患患者が直面する共通の課題であり、しばしば症状を悪化させ、生活の質を低下させます。社会的交流活動は、有意義なつながりや対人関係のスキルを身につける機会を提供します。支えになる人間関係を築くことで、帰属意識が育まれ、孤独感やスティグマが軽減されます。

3.　作業療法：意味のある活動や役割に参加することは、自立、自尊心、目的を促進するために不可欠です。作業療法では、日常生活、職業訓練、雇用準備のための技能開発に重点を置きます。目的のある作業に参加することで、患者は自分の能力に自信を取り戻し、徐々に社会復帰していきます。

4.　日常生活支援：実用的な支援は、日常生活での困難を乗り越えるために不可欠です。日常生活支援には、セルフケア技能訓練、服薬管理、家事管理など、さまざまな介入が含まれます。

これらの支援は自律性と自給自足を高め、地域社会でより自立した生活を送ることを可能にします：創造的な表現は、感情表現、自己発見、癒しのためのユニークな手段を提供する。アートセラピーは、さまざまな芸術的媒体を通して、個人の考えや感情、経験を探求することを促します。芸術に没頭することで、リラクゼーション、ストレス軽減、感情調節が促進され、達成感や自己表現も育まれます。

6.　語り：個人的な語りを共有することは、カタルシス、承認、つながりを得るための強力な手段となります。ストーリーテリングの活動は、個人が自己表現し、経験を共有し、仲間同士の共感と理解を築くための安全な空間を提供します。物語を語ることで、個人は承認、支援、共同体感覚を見いだし、羞恥心や孤立の壁を取り払います。

7.　センターでの余暇活動：余暇やレクリエーション活動は、バランス、楽しみ、全体的な幸福を促進するために不可欠です。センターの余暇時間は、リラックスしたり、余暇を楽しんだり、社会的な活動に参加したりする機会を、支援的な環境の中で提供するものです。これらの活動は、ストレスから解放され、喜び、創造性、平常心を育むひとときを提供します。

シェムリアップ州病院精神科リハビリテーションセンターでのデイケアの一コマ（中央が Vannak さん）

要約すると、精神保健リハビリテーションセンターの各活動は、精神疾患を持つ人々の回復、エンパワーメント、社会的包摂を促進する上で重要な役割を果たしています。身体的、感情的、社会的、認知的な様々な幸福の側面に取り組むことで、私たちは、病気の制約から解放され、充実した有意義な生活を送ることができるように支援します。私たちの総合的なアプローチを通じて、すべての人に希望と回復力、そして尊厳を育むよう努めています：私たちの活動のインパクトは、数字にとどまりません。私たちの集団的な努力によって、受益者の生活が目に見える形で改善されています。ケアへのアクセスの向上から社会的統合の強化まで、成功事例のひとつひとつが、メンタルヘルス支援がもたらす変革の力の証です。

課題と機会

私たちは成果を祝う一方で、今後の課題にも留意しています。限られた資源。青木先生から日本の基金の制限について E メールをいただきました。本当に心配です。Covid-19 の期間中もその後も、多くの人々が精神的な問題を抱えながら生きています。その数はますます増え、精神教育の必要性が叫ばれています。SUMH が、もしカンボジアから撤退するならば、カンボジアの人々のためのメンタルヘルスセンターのモデルを作ってからにしてほしいと願っています。

結論　結論として、シェムリアップ病院のメンタルヘルス・リハビリテーション・センターは、カンボジアの精神病と闘う人々にとって希望の光です。私たちの包括的なサービスと揺るぎない献身を通して、数え切れないほどの個人や家族の生活に目に見える変化をもたらしています。未来に向けて、私たちの活動に惜しみないご支援と

ご尽力をいただいているサポーターと会員の皆様に深く感謝申し上げます。
私たちは共に、カンボジア、そして世界のメンタルヘルスに明るい未来を築くことができるのです。

敬具

Kruoch Vannak
SUMH カンボジア・ディレクター、心理教育者

3 つのプロジェクト地における活動と症例数

プロジェクト地	活動	新患数（男性）	再来患者数（男性）	計
シェムリアップ保健区	リハビリテーション・地域精神保健活動	207（104）	1574（807）	1781（911）
アンコールチュム保健区	精神科外来診療	0	0	0
クララーン保健区	精神科外来診療	0(0)	0（0）	0（0）
計		**207（104）**	**1574（807）**	**1781（911）**

I- シェムリアップ保健区での活動

1- リハビリテーションと地域精神保健活動

活動内容	回数	参加者数（男性）		
		新患数	再来	合計
1.デイセンター	202	207（104）	1552（800）	1759（904）
2. うつ病グループ	0	0	0	0
3. 家庭内暴力グループ	0	0	0	0
4. アルコールグループ	0	0	0	0
5. 臨床動作法	0	0	0	0
6. 訪問	10	0	22（7）	22（7）
計	**212**	**207（104）**	**1574（807）**	**1781（911）**

2- 地域精神保健増進プログラム

1. キーパーソンミーティング	0
2. トレーニング	0

3- 会議並びに関係機関との連携

NGO/関係会議	回数
保健医療従事者の懇談会	6
NGO スタッフの月例会	7
2023 年シェムリアップ州保健局会議	1

原文

Annual Report: Mental Health Rehabilitation Center at Siem Reap Hospital, Cambodia

Dear Supporters and Members of Supporters For Mental Health (SUMH),

It is with great pleasure and gratitude that we present to you the annual report detailing the impactful activities of the Mental Health Rehabilitation Center at Siem Reap Hospital, Cambodia. Your unwavering support and dedication have enabled us to continue our vital work in providing comprehensive mental health services to those in need.

Overview: Since its inception, the Mental Health Rehabilitation Center has been committed to improving the lives of individuals living with mental illness in Siem Reap Province and beyond. Through a holistic approach encompassing education, rehabilitation, and community outreach, we have strived to address the complex needs of our beneficiaries.

The Importance of Activities at the Mental Health Rehabilitation Center

At the Mental Health Rehabilitation Center, we recognize the significance of our diverse range of activities in

promoting recovery, empowerment, and social inclusion among individuals living with mental illness. Each of our activities serves a unique purpose, collectively contributing to the holistic well-being of our beneficiaries. Here's why each activity is essential:

1. **Psycho-Education:** Education is key to understanding and managing mental health conditions. Psycho-education equips individuals with knowledge about their illness, treatment options, coping strategies, and relapse prevention techniques. By empowering them with information, we enable greater self-awareness and participation in their own recovery journey.
2. **Social Interaction:** Social isolation is a common challenge faced by individuals with mental illness, often exacerbating their symptoms and reducing their quality of life. Social interaction activities provide opportunities for meaningful connections and the development of interpersonal skills. Building supportive relationships fosters a sense of belonging and reduces feelings of loneliness and stigma.
3. **Occupational Therapy:** Engaging in meaningful activities and roles is vital for promoting independence, self-esteem, and purpose. Occupational therapy focuses on developing skills for daily living, vocational training, and employment readiness. By participating in purposeful tasks, individuals regain confidence in their abilities and gradually reintegrate into society.
4. **Aids to Daily Living:** Practical support is essential for individuals to navigate the challenges of daily life. Aids to daily living encompass a range of interventions such as self-care skills training, medication management, and household management. These supports enhance autonomy and self-sufficiency, enabling individuals to live more independently within their communities.
5. **Art Work:** Creative expression offers a unique avenue for emotional expression, self-discovery, and healing. Art therapy encourages individuals to explore their thoughts, feelings, and experiences through various artistic mediums. Engaging in art promotes relaxation, stress reduction, and emotional regulation, while also fostering a sense of accomplishment and self-expression.
6. **Storytelling:** Sharing personal narratives can be a powerful tool for catharsis, validation, and connection. Storytelling activities provide a safe space for individuals to express themselves, share their experiences, and build empathy and understanding among peers. Through storytelling, individuals find validation, support, and a sense of community, breaking down barriers of shame and isolation.
7. **Center Leisure Time:** Leisure and recreational activities are essential for promoting balance, enjoyment, and overall well-being. Center leisure time provides opportunities for relaxation, leisure pursuits, and social engagement in a supportive environment. These activities offer moments of respite from stressors, fostering joy, creativity, and a sense of normalcy.

In summary, each activity at the Mental Health Rehabilitation Center plays a vital role in promoting recovery, empowerment, and social inclusion among individuals with mental illness.

By addressing various aspects of well-being—physical, emotional, social, and cognitive—we empower individuals to lead fulfilling and meaningful lives, free from the constraints of their illness. Through our holistic approach, we strive to cultivate hope, resilience, and dignity for all.

Impact: The impact of our activities extends far beyond the numbers. Through our collective efforts, we have witnessed tangible improvements in the lives of our beneficiaries. From increased access to care to enhanced social integration, each success story is a testament to the transformative power of mental health support.

Challenges and Opportunities: While we celebrate our achievements, we are also mindful of the challenges that lie ahead. Limited resources. I got an E mail from Dr. Aoki about limitation Fund in Japan. I am really worried. During and after Covid 19 there are many people living with mental health. The number is increased and the need

is for mental education required. I really want to see SUMH Cambodia created the mental health rehabilitation center model for Cambodia people before withdrawal.

Conclusion: In conclusion, the Mental Health Rehabilitation Center at Siem Reap Hospital is a beacon of hope for those struggling with mental illness in Cambodia. Through our comprehensive services and unwavering dedication, we are making a tangible difference in the lives of countless individuals and families. As we look to the future, we express our deepest gratitude to our supporters and members for their continued generosity and commitment to our cause.

Together, we can build a brighter future for mental health in Cambodia and beyond.

Sincerely,

Kruoch Vannak

Director of SUMH Cambodia, Psycho-educator

4.カンボジア戦略的精神保健計画 2023-2032 年

青木勉（SUMH 理事長）

現地視察報告でも述べましたが、カンボジアは、2024 年 2 月にカンボジア戦略的精神保健計画 2023-2032 年を発表しました。今後の当会の活動にとっても非常に大切な資料となりますので、会員の皆様にその概略をご説明します。

1.　精神保健サービスの現状

2018 年にカンボジアは、カンボジア SDGs を採択し、2030 年までに、非感染性疾患による早期死亡を、精神疾患の予防と治療により 1/3 とする目標を立てた。

現在の精神保健サービス体制は、一般保健医療の中に位置付けられ、図１に示すような層構造となっており、医療機関数は表１に示す通りである。また表２に示すように、精神保健医療従事者に関しては、SUMH がカンボジアでの活動を開始した 2001 年に 10 名であった精神科医数が、2022 年には 97 名まで増えてきている。

そして、表４に示すように、2022 年に精神疾患の治療を受けた国民は 95,210 名であり、カンボジアにおける精神疾患に罹患していると推定される人口 2,189,633 人の 4.35%に過ぎない。うつ病では、2022 年には、治療を受けている人口は全体の 1.7%に過ぎない。一方、統合失調症は、2020 年には、44.2%であった。

2.　精神保健政策

精神保健政策については、表５に示すような指標を掲げ、時間軸に沿った具体的な到達目標を設定している。精神疾患別の治療を受けている患者さんの割合や、精神保健の法律の制定、精神科専門家会議等の設定、精神保健従事者の人材開発、病院、ヘルスセンター等の施設面、サービスの整備、ソフト面の開発、デジタル機器を使った精神保健サービスまで含めた包括的な計画を含んでいる。

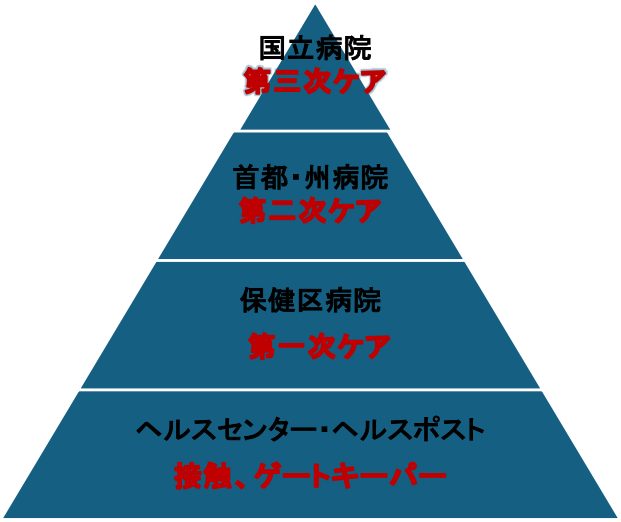

図 1. 医療サービスの体制

表 1. 基本的な精神保健サービスを実施している機関数

機関		
国立病院	12	2
首都・州病院	25	25
保健区病院	94	74
計	131	101

表２ 2022 年における精神科医数と精神科看護師数

専門	男性	女性	計
精神科医	63	34	97
精神科看護師	19	14	33
計	82	48	130

表３. 2022 基本的な精神保健教育を受けた医師、医療助手と看護師

資格	Male	Female	Total
医師 医療助手	250	46	296
看護師	436	191	627
計	686	237	923

表4. 2015 年から 2022 年の間に治療を受けた
うつ病(D)と統合失調症患者(S)の割合（%）

指標	‘15	‘16	‘17	‘18	‘19	‘20	‘21	‘22
D	2	2	2	1.7	2.2	1.9	1.6	1.7
S	33.8	15.3	10.3	9.9	12.2	52	56.5	44.2

表5.精神保健政策の主な指標

No	主要な指標
1	うつ病患者のうち治療受けている割合
2	統合失調症患者のうち治療を受けている割合
3	児童青年期患者のうち治療を受けている割合
4	高齢者のうつ病患者のうちケアと治療を受けている割合
5	ケアと認知症患者のうち治療を受けている割合
6	精神保健に関する法律
7	精神保健センター
8	精神保健専門家会議

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

編集後記

今回はコロナ後初めての現地訪問の特集です。現地活動視察、今後の活動について現地スタッフ、関係機関との検討を行いました。コロナ禍においても理事会には毎回現地スタッフがオンラインで参加し、今後の活動に向けて関係機関であるシュムリアップ州病院、州保健局と話し合いを続け、少しでも顔の見える活動を継続してきました。今回訪問をすることにより、現地のニーズを改めて再認識し、継続的な地域精神保健活動の現地のシステム化、移譲を目指し、保健省、自治体とともに、最終段階の活動のシステム化に向けた取り組みをしていく必要性があると感じました。現地に視察に行き、様々な交渉にあたった理事長、全ての会議の通訳を担当してくれた青木桃太郎氏にこの場を借りて感謝致します。これから最終段階に入る活動をどうぞ見守り、ご支援いただければと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

（青木利江子）